令和８年度第１回宇治市文化芸術推進委員会議事録

日時　令和８年８月１９日（水）午後２時～午後４時
場所　うじ安心館３階ホール

出席者
宇治市文化芸術推進委員会
委員長　　滋野　浩毅
職務代理　吉水　利明
委　員　　小宮山　恭子
〃　　塩見　啓子
〃　　德永　厚子
〃　　中谷　雅夫
〃　　西田　尚武
〃　　左　　美幸
〃　　福井　ひろ子
〃　　松村　尚
〃　　山本　淳子
〃　　吉川　宗智

事務局

産業観光部部長	脇坂　英昭	
産業観光部副部長	齊藤　政也	
産業観光部	文化スポーツ課長	吉田　知史
〃	観光振興課長	澤田　直子
〃	文化スポーツ課　副課長兼文化係長	倉井　麗子
〃	〃　文化係　主任	河上　恵美
〃	〃　文化係　主事	髙橋　暖
市長公室	秘書広報課	佐々木　卓也
福祉こども部	障害福祉課副課長	木内　小季
都市整備部	歴史まちづくり推進課長	谷澤　潔
教育部	生涯学習課副課長	綿引　健文
〃	博物館管理課主幹	坪内　淳仁
〃	学校教育課長	安留　岳宣

資料
・次第
・会議資料　資料１～資料３

会議内容
１．開会
２．委嘱状交付
３．市長挨拶
４．委員、事務局職員紹介

５．議事等

（１）委員長選出、委員長職務代理指名

委員長挨拶

この夏も熊本で地震が起こり、また千葉でも水害が起き、大きな災害がある年となった。しかし、その災害から復興していく過程で文化の力を強く感じることが多くある。歴史の色々な例をみていくと、復興する中で後世に残るような文化が生まれることがある。文化の力を宇治の地域の中でどのように生かしていくか、あるいは宇治を元気に活力のある地域にするために、文化はどのような力を発揮できるかということを本委員会で考えていきたい。

（２）文化芸術振興基本計画における令和７年度の事業実施状況について

・事務局より「文化芸術振興基本計画における令和７年度の事業実施状況について」資料２説明。

（委員）

数値目標に向けて事業実施をしていると思うが、その目標と実施された内容があっていないように感じる。

（事務局）

機会の充実などの取り組む柱は設定したが、実際に数値目標として表せるものは何があるか検討を行った。設定した評価指標で、すべてを網羅できていないと考えているが、一定、割合として、数値目標を出すことができるのではないかと考え、設定をしたところである。

（委員）

文化センターの利用者数について目標値が設定されているが、以前の委員会で交通の便がよくないという話が出たが、状況は改善されているのか。また、文化センターの建物が古くなっていると感じるが、今後修繕等の計画はあるのか。

（事務局）

主催者にシャトルバスを手配してもらい、改善を図っているイベントがある。また、文化センターの駐車場が満車になれば、市役所の駐車場を開放することも行っている。

文化センターは開館から 40 年を越え、宇治市のアセット計画の第三期中期計画の中で、大規模改修をする予定であるが、詳細については現在検討中。

（３）令和８年度の文化事業について

・事務局より「令和８年度の文化事業について」資料３説明。

（委員）

浄妙寺ワークショップについて、大河ドラマをきっかけに浄妙寺が非常に注目されるようになったと思うが、木幡にある宇治陵も同じように注目度があがり、地方からくる人が増えたと感じている。宇治陵や松殿山荘もスタンプラリーで回れるようにすれば子供達も楽しく回れるのではないか。実際にスタンプを置くことが難しければ、デジタルスタンプもできるので、検討いただきたい。

（事務局）
宇治陵のスタンプラリーについて、とても面白い提案であるが、住宅地の中にあるため、状況を鑑み、実施等に向けて検討が必要と考える。昨年度、松殿山荘に協力いただき、重要文化財の建物巡りとお茶体験を行った。個人所有物のものとなるため、所有しているものとそれぞれ協議が必要と考える。

（委員）
宇治陵について、藤原氏のお墓が１㎞にわたって点在している。１号の総拝所をポイントとして、１か所行くだけでも宇治陵に行ったとなるのでよいのではないかと思うが、宮内庁の管轄なので、こちらも調整が必要と考える。

（委員）
宇治茶・観光誘客動画制作費について、（委員が）お茶摘みに行った際、東京のテレビの取材が入っており、後日放送を見たところとても分かりやすかった。宇治茶について、まったく知らない関東の人が丁寧に取材をして制作されており、宇治茶について深く学ぶことができた。このような、宇治茶のブランド強化だけでなく、子供たちにもわかりやすい作り方で、宇治学等にも取り入れてもらえればありがたいと思う。

（事務局）
（関東の番組に対して）同じ感想を持った。宇治茶を全く知らない人も、宇治茶に関わっている人にとっても十分に分かりやすいものと感じた。動画制作については、わかりやすさも必要であると考えているが、今回、我々が取り組む動画は、宇治市のこれまで紡いできた宇治茶の歴史、日本の文化に触れるような内容で、宇治茶の魅力を伝えていければと考えている。

（委員）
平等院には海外からも多くの観光客が来られていると思うが、平等院に来ている人と文化芸術のまちづくりとの繋がりはどうように考えているのか。資料に平等院のものがないが、平等院には自然に多くの観光客が来るので、そこは特に考えていないのか。

（事務局）
同じ文化財であっても、例えば文化財を活用した事業を対象者を絞って案内する場合もあれば、文化財そのものを見学する場合もあり、見方によって、観光に資する取り組みともいえるし、文化芸術に資する取り組みともいえる。それぞれの目的で、違う活用の仕方があると考える。

（委員）
宇治に住む小・中学生を対象として、宇治茶を広めるため資料にあるように様々な活動に取り組んでいると思うが、学校近くに茶畑がある学校は、実際に茶摘み等の体験に取り組んでいるが、茶畑から離れている学校の子供たちは、宇治茶について漠然と知っているくらいとなっている。茶づなで学ぶ取り組みもあると思うが、座学だけでは忘れてしまうこともあるので、実際に抹茶を点てて飲む等、五感を通しての体験は忘れないので、そういった体験学習を子供たちに提供いただけたらと思う。

（事務局）
小・中学校で行われている総合的な学習の時間において、小学3年生から中学3年生まで、調べ学習や発表の場を設け、学年ごとにテーマを決めて「宇治学」という形で取り組んでいる。小学3年生は宇治茶について学習し、その中で、抹茶を飲むという体験も行っている。今回は特別体験プログラムとして、ふるさとの特産である宇治茶に愛着を持てるというところを目指し、茶づなに行って学習するという事業化を行ったところである。

（委員）
令和 8 年度の文化事業の取り組みについて、面白い企画がたくさんあるが、知らない事業が多くあった。文化事業に興味がある人が、このサイトを見ると全てのイベントが確認できるような、情報が集約されたサイトがあればいいと思う。各事業のチラシなどにも、その集約されたサイトの案内を載せることや、同時期に開催されているイベントについても、その参加している人に情報発信ができれば、広く周知できるので、検討していただければと思う。

（事務局）
現在、事業情報を集約しているサイトはないため、今後検討して参りたい。

（委員）
紫式部文学賞について、受賞者は女性に限定されているが、そろそろ性別を問わない形にしてもよいのではないか。

（事務局）
以前にもご意見をいただき、検討してきたが、やはり伝統ある日本女流文学の継承と発展を目的としており、当面この形を踏襲していきたいと考えている。文学賞は、女性であるが、市民文化賞は性別を問わない。

（委員）
紫式部市民文化賞の選考委員会で、漫画やアニメ作品をどうするかという議論がでている。若い人や子供たちの心に訴えるのはアニメであると思うので、予算の都合上、紫式部市民文化賞の中で新規の賞を作るのは難しいと思うが、別途アニメ作品に対する賞があればいいと考える。

（事務局）
アニメに対する賞を作るとなれば、現在の紫式部市民文化賞に専門の委員がいないので、別の賞として成立させる必要がある。今後、議論していきたい。

６．その他
（委員）
文化芸術による心の豊かさは、生涯学習に繋がっていくと考える。子供の頃から、文化芸術に親しむことを文化芸術推進委員会から発信していけたらと強く感じている。子供向けの事業でなく、大人が参加できる事業も増やしていただけたらと思う。

（委員）
担い手を次の担い手にどうつなげていくのか、世代交代が難しいと感じている。

（委員）
　文化団体は、高齢化に悩んでいる。その中で様々な活動を行っているが、例えば秋の文化祭などは事業が重なる場合があるので、コミュニティセンターや公民館なども含めて、みんなが色々な場所で、一緒に一つの文化祭として前向きにやっていけたらと思うが、やはり、高齢化、担い手が育っていないという厳しい現状がある。

（委員）
　宇治田楽まつり実行委員会においても高齢化が進んでおり、次の担い手を育てるのが難しい状況である。宇治は色々な団体はあるが、地域でみるとつながっていないと感じる。他の地域では、町全体が協力してお祭りなどを作り上げている。
　また、宇治には体験する場がないと思っている。便利な場所に皆が集まれる施設やコミュニティの場がない。人もお金も必要になってくると思うが国等とも連携し、町おこしをしてもらいたい。

（委員）
　先ほどの補足となるが、宇治陵総拝所の件について、浄妙寺と一緒に行くことが理想ではあるが、木幡小学校から子供達の足では距離がある。宇治陵は、木幡小学校の近くに夫婦墓がありそこは行きやすいので、今の事業の中で可能であれば検討いただきたい。

（委員）
　鵜飼に予約システムがなく、遠方から楽しみに来ていただいた人に参加いただけないことがあった。予約システムがあれば、人数の把握や船頭の確保もできると思う。
　また、別のイベントにおいて、初めてそのイベントを知ったという人がいたので、先ほど意見にもでたが、宇治市のイベントをまとめたサイトがあればいいと思う。

（委員）
　様々な地域で色々な取り組みがされているが、それぞれがバラバラでやっているという印象も感じている。
　また、地方の人の方が地元の人より宇治を良く知っているようなイベントもあり、地元の人がもっと一緒に盛り上がれる協力できるものが出来ればと感じている。

（委員）
　様々な情報手段ができたことで、情報が分散し、伝達手段が難しくなってきており、情報周知の難しさを感じている。
　観光の目線からとなるが、担い手、支え手というところでいうと、外国人の方も含む観光客の方が参加可能な事業も検討いただきたい。昨年、流行語大賞にノミネートされた「お手伝い」と「旅」をかけあわせた「おてつたび」というものがあり、旅行者がその土地に行って収穫や旅館の手伝いなどをするというものがある。こういったものが担い手、支え手不足の改善につながるのではないかと考える。

（委員）
　資料３の令和８年度の文化事業についての３ページのＱＲコードのLmagaをみたところ、とても面白いものであった。情報一元化も大切であるし、こういったLmagaのように良い媒体が充実しているので、そこにリンクを貼るという形もできると考える。

（委員）
昨年まで、中学校で美術講師をしていたが、芸術教科は好き嫌いが極端に分かれる教科だと感じている。通学途中に道に咲いている花をきれいと思うことも、美術だと、美術は身近にあるものだと伝えてきた。
また、他府県から校外学習で市営茶室対鳳庵に来てくれている学校がある。宇治の生徒は、宇治学でお茶の学びもしているが、茶室で五感を使う体験もしてほしいと考える。

（委員）
資料２のＰ1.2の数値目標の４の担い手・支え手育成のところで、宇治市少年少女合唱団団員数について 19 名とあるが、団員数を増やすにあたってどういった取り組みをしているのか。
また、宇治市文化芸術功労賞はどのくらいの規模で表彰を行うのか。スポーツであれば記録の数字で推し量れるが、この賞は基準が難しいと考えるが、どのような判断基準で表彰するのか。

（事務局）
団員数を増やす取り組みとして、指導者とともに考え、子供が多く集まるようなイベントに積極的に参加するなど合唱の楽しさを伝える取組などを実施し、毎年、一定の入団者はいるものの、卒団していく者もいるため、大幅な団員数の増加は難しいところがある。
宇治市文化芸術功労賞については、今年度新たに創設するもので、詳細な要綱については今後制定を予定しているが、２０年以上文化芸術活動に従事し、市民文化の向上・発展に貢献された方や、１０年以上文化芸術活動の指導的立場に従事し、文化芸術の継承・発展に貢献されている方等を対象に表彰できればと考えている。文化芸術団体等からの推薦をいただく予定で検討している。

（委員長）
本日の議論の中で、色々な課題や提案が見えた。地域の担い手をどうしていくかという課題もある一方で、大人向けの企画があればという意見もあったが、大人が楽しめるまちはいい町であると思う。みんなが文化を楽しみ且つ文化を作る人もいるという町になれば良いと思う。
また、宇治は観光客が多いので、情報の一元化は、市民にとっても観光客にとっても大切である。また、「おてつたび」の話が出たが、観光客の方にお客さんという立場だけでなく、地域に主体的に参加してもらう中で、今の言葉でいうと関係人口になっていくということもあると思う。

５．閉会